大学生が日本女性会議に関わるモノゴトを伝える

ミライクNews

Vol.2

不破周子さん　太田泰雅さん　山本真帆さん

11月に開催される日本女性会議2020あいち刈谷（ミライク会議）に向けて、学生ジャーナリストたちが取材した内容を紹介します。

今号は、仕事も生活も充実させている男性にインタビューしました。

育休取得した男性従業員

松原 寛さん

アイシン精機㈱品質管理部課長を務める。管理職に昇格チャレンジする前年の平成30年8月に第2子が誕生し、翌月に1か月間育児休業を取得。妻に代わって家事をこなした。その後、令和2年1月に管理職昇格。ワーク・ライフ・バランスにおいても職場のパイオニアとして活躍中。

家事育児の大変さを実感

「子どもが生まれるまで、育児休業の大切さを知らなかった」と話す松原さん。第1子が誕生した時に、出産したばかりの奥さんが家事・育児を行うことの大変さを目の当たりにし、育児休業の取得を決意。

1か月の家事・育児を通して「家事・育児を1人でこなす苦労が分かりました」と笑顔で話す松原さん。その結果、子育てにも一層興味がわき、講演会にも参加するようになったそうです。また、出産直後の奥さんの負担も減り、感謝の言葉を受けたとうれしそうに話してくれました。

部下の積極的な育児休業の取得をめざして

育児休業の取得を宣言した際、職場メンバーの理解があり、スムーズに休みに入ることができたそう。自らの経験から、復職後は、「積極的に後輩たちに取得を促すようになった」と話す松原さん。まだまだ男性の育児休業取得者が少ない中、今後、男性の育児参加を推進するため「『男性が育児休業を取りやすい風土作り』を積極的にしていきたい」と話しました。

松原さんが男性従業員の中で先陣を切って制度を利用する姿が印象的でした。また、アイシン精機㈱では、社長自らが男性育休100％宣言するなど、積極的に男性の育児参画を推奨しており、今後より一層の男性の育児参加を増やしたいと考えていました。

働きやすい職場環境が整っていると感じました。育休を取得したことで育児の楽しさや難しさ、子どもの成長をじかに感じ、有意義な時間を過ごせたという話が印象に残りました。

学生レポーター　不破、山本

ワーク・ライフ・バランスに重点をおく経営者

梶川 洋さん

道路設計、河川･砂防設計や測量などを行う㈱梶川土木コンサルタントで代表取締役を務める。㈱ワーク・ライフバランス認定コンサルタントとして自社はもとより、現在は企業や学校で“成果が上がる働き方改革”の推進に取り組んでいる。

仕事の質の向上

8年前に受けた「ワーク･ライフバランス養成講座」をきっかけに、自身が経営する会社の現状を見直し、見事働き方の改善に成功した梶川さん。当時に比べ残業は8割削減しながらも業績は約3倍になったそう。まず取り組んだのが社員の意識改革。一定期間、定時での帰宅を義務化したところ最初は変わらない仕事量をより短い時間でこなすことに戸惑う社員もいたそうですが、自分たちで仕事のやり方を考え工夫する場を設けるなど、段々と早く帰ることが当たり前の風土へと変わっていきました。また、社員全員との面談を毎月行うことで、「社員の得意を生かすチームづくりを支援しています」と話します。

働くを楽しく

▲子育て中の男性従業員

「働きやすい職場にするために“これ”という１つの解決策を求めがちですが、正解はいくつもあり、一度で終わらないので、継続して取り組むことが大事」と話す梶川さん。さらに働きやすく、楽しい職場にするために、部署を超えたクロス面談を行っており、今後はテレワークの実施にも前向き。従業員の皆さんも、仕事も家庭も充実していると、その働きやすさを実感していました。

「働き方が変化してよかった」と社員の人が生き生きと話していたのが印象的で「働くを楽しく」を実現するために、真剣に取り組んでいることが伝わりました。

学生レポーター　不破、太田